

下田メディカルセンター経営強化プラン

— 点検評価報告書(令和6年度) —

2026年(令和8年) 2月

一部事務組合下田メディカルセンター

下田メディカルセンター経営強化プラン実施状況 点検・評価報告 (令和6年度)

下田メディカルセンター経営強化プランは、令和5(2023)年度から令和9(2027)年度までの5年間を対象期間とし、人口減少や少子高齢化、医療需要の変化、新興感染症への備え、医師・看護師不足等の厳しい環境の中で、持続可能な地域医療供給体制の確保を目指すものです。

本経営強化プランでは、実施状況を点検及び評価し、公表することとなっています。

開設者	一部事務組合下田メディカルセンター	
プランの名称	下田メディカルセンター経営強化プラン	
策定	令和6年2月	
計画期間	令和5年度～令和9年度(5カ年)	
病院の概要	病院名 1	下田メディカルセンター
	運営者(指定管理者)	医療法人社団静岡メディカルアライアンス
	所在地	静岡県下田市六丁目4番10号
	許可病床	一般病床130床(急性期97床、地域包括ケア33床)、感染症病床4床
	診療科	標榜診療科16科 内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、婦人科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、リハビリテーション科、糖尿病内科
	病院名 2	下田メディカルセンター附属みなとクリニック
	運営者(指定管理者)	医療法人社団静岡メディカルアライアンス
	診療科	内科
公立病院として今後果たすべき役割	静岡県保健医療計画における二次救急医療機関として急性期医療を担い、地域住民に必要な医療サービスを提供するとともに、災害医療、感染症医療、へき地医療の実施に加え、地域包括ケアシステムの構築に向け、医療・福祉・介護の連携体制の構築に務める。	
点検・評価の体制	点検：院内で実施 評価：事業評価委員会で実施	
公表	一部事務組合ホームページで公表	

1 評価方法について

本プランの令和6年度の数値目標と実績を比較し、評価しました。

評価の基準

評価	達成率	
S	120%以上	目標を相当程度上回り達成した
A	100%以上 120%未満	目標を達成した
B	80%以上 100%未満	目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要である
C	80%未満	目標を達成しておらず、改善が必要である

2 対象年度(令和6年度)の概要

4月より、訪問診療や訪問看護、訪問リハビリテーション事業の拠点となる在宅医療支援室を設置し、地域への在宅訪問サービスの提供を強化するとともにオンライン診療にも取組み始めました。また、地域における高齢者の救急搬送・入院の受け入れからリハビリテーション、栄養管理、入退院支援、在宅復帰等の機能を包括的に担う地域包括医療病棟(49床)の運用も10月から開始しました。

変化する地域医療ニーズへの対応に取り組むとともに、医師確保にも力を入れてまいりました。指定管理者も最重要課題として取組み、組合・組合議会・指定管理者が連携して静岡県に要望する等、努力を続けてきた結果、不在となっていた常勤整形外科医師も2名確保することができ、整形外科手術の再開につながり患者数も増加しました。

医療機器については、老朽化していた全身用X線骨密度測定装置や超音波画像診断装置を更新し、検査水準の維持に努めました。

また、旧共立湊病院の閉院以降、積年の課題となっていた旧病院建物の解体撤去については、令和5年10月に解体工事に着手し、令和6年11月に工事が完了しました。

3 患者数の状況(経営強化プラン8頁)

(1)患者数等の推移

ア 入院患者数の状況(令和2～6年度)

項目\年度		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)
入院	入院延患者数	32,999人	33,473人	28,720人	27,385人	29,198人
	診療日数	365日	365日	365日	366日	365日
	1日あたり平均患者数	90.4人	91.7人	78.7人	74.8人	80.0人
	病床利用率	65.24%	66.19%	58.12%	55.60%	61.53%

イ 外来患者数の状況

項目\年度		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)
外来	外来延患者数	66,966人	68,868人	65,760人	59,855人	61,019人
	診療日数	294日	294日	294日	294日	293日
	1日あたり平均患者数	227.8人	234.2人	223.7人	203.6人	208.3人

ウ 手術件数

項目\年度		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)
手術	外科	124件	107件	100件	74件	70件
	眼科	897件	996件	287件	594件	774件
	整形外科	301件	312件	194件	3件	140件
	皮膚科	30件	26件	7件	0件	0件
	泌尿器科	18件	18件	21件	23件	30件
	脳神経外科	11件	18件	0件	0件	0件
	合計	1,381件	1,477件	609件	694件	1,014件

エ 救急患者数の状況

項目\年度		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	
救急	救急患者数	2,735人	2,614人	3,092人	2,781人	2,798人	
	内、救急車搬送件数	時間内	1,329人	1,311人	1,330人	1,207人	1,265人
		時間内	572人	576人	619人	519人	515人
		時間外	757人	735人	711人	688人	750人

オ 附属みなとクリニックの状況

項目\年度		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)
外来	患者数	916人	772人	728人	703人	662人
	診療日数	216日	217日	210日	215日	216日
	1日あたり平均患者数	4.2人	3.6人	3.5人	3.3人	3.1人

4 病院経営強化プランにおける取組(経営強化プラン9頁～)

(1)役割・機能の最適化と連携の強化

ア. 地域医療構想等を踏まえた当院が果たすべき役割・機能

【実施状況】

(ア)救急医療について

下田メディカルセンターは、静岡県保健医療計画において、二次救急医療機関に位置付けられており、圏域の急性期患者の受け入れに努め、重篤な患者については、三次救急医療機関への速やかな搬送に務めました。

(イ)外来診療について

地域における医療ニーズの高い内科や整形外科を中心に一般的な疾患への対応に務めました。また、地域に不足している小児科や眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科等の診療科については、非常勤医師の招聘を積極的に行い、診療を維持しました。なお、令和5年度は、整形外科常勤医師が不在となったことにより、手術や入院が制限されましたが、令和6年度より整形外科常勤医師を採用することができたため、手術や入院を再開するとともに地域の医療ニーズに応えることができました。

診療科別入院・外来患者数(含時間外)

診療科		令和5年度	令和6年度	比較	備考
内 科	延入院数	23,040	19,677	△3,363	
	延外来数	21,675	19,295	△2,380	
外 科	延入院数	3,461	3,428	△33	
	延外来数	3,918	3,436	△482	
婦 人 科	延入院数				
	延外来数	334	297	△37	
眼 科	延入院数	715	1,136	421	
	延外来数	5,566	7,110	1,544	
耳鼻咽喉科	延入院数				
	延外来数	2,833	2,072	△761	
整 形 外 科	延入院数	106	4,814	4,708	R5 常勤医不在
	延外来数	7,958	10,387	2,429	
小 児 科	延入院数	1		△1	
	延外来数	6,022	4,780	△1,242	
泌 尿 器 科	延入院数	46	60	14	
	延外来数	2,745	2,890	145	
皮 膚 科	延入院数				
	延外来数	2,134	2,476	342	
リハビリテーション科	延入院数				
	延外来数	146	130	△16	
糖 尿 病 内 科	延入院数				R5.9～
	延外来数	895	1,620	725	
循 環 器 内 科	延入院数		80	80	
	延外来数	1,857	2,744	887	
脳 神 経 外 科	延入院数	16	3	△13	
	延外来数	2,496	2,343	△153	
ド ッ ク	延入院数				
	延外来数	383	419	36	
健 診	延入院数				
	延外来数	893	1,020	127	
合 計	延入院数	27,385	29,198	1,813	
	延外来数	59,855	61,019	1,164	

(ウ)自治体等が行う検診業務支援

市町等	業務内容
下田市	子宮頸がん・乳がん検診 骨粗鬆症検診
南伊豆町	子宮頸がん・乳がん検診 骨粗鬆症検診
松崎町	子宮頸がん・乳がん検診
西伊豆町	子宮頸がん・乳がん検診
河津町	子宮頸がん・乳がん検診
東伊豆町	子宮頸がん・乳がん検診

(エ)許可病床数の状況

病床機能別内訳		一般病床			感染症 病床	計
		急性期病床		地ケア病床		
		2F 病棟	3A 病棟	3B 病棟		
令和6年度	R6. 4. 1～ R7. 3. 31	48 床	49 床	33 床	4 床	134 床

※地ケア病床＝地域包括ケア病床

※令和6年10月から3A病棟は地域包括医療病棟に

イ. 地域包括ケアシステムの構築に向けた果たすべき役割・機能

【実施状況】

地域包括ケアシステムの構築に向け、賀茂圏域1市5町からの依頼により「在宅医療介護連携推進支援センター」を院内に設置し、圏域内の医療と介護、福祉、自治体との連携強化に努めたほか、地域包括ケア病棟では、急性期治療後の在宅復帰支援や在宅患者・介護施設で療養している入所者の急性増悪時の受入れ、医療ショート(レスパイト入院)を受入れました。

また、令和6年10月からは地域における高齢者の救急搬送・入院の受け入れからリハビリテーション、栄養管理、入退院支援、在宅復帰等の機能を包括的に担う地域包括医療病棟(49床)の運用も開始しました。

(ア)賀茂地区在宅医療・介護連携推進支援センターの活動

賀茂1市5町より委託を受け、賀茂地区における拠点病院として在宅医療介護連携推進に向けた取組みを行いました。

令和6年度は、医療、介護、福祉関係者を対象とした各種勉強会を開催するとともに、住民に向け「在宅医療を考える」テーマは「がんと診断されて～医療機関との付き合い方、在宅での過ごし方～」と題したシンポジウムを賀茂地区3ブロックにおいて開催しました。

医療・介護・福祉等多職種による顔の見える関係ならびに連携の強化の更なる推進に努めました。

普及啓発のための講演会・勉強会

内 容	対象者
「賀茂地区事業所一覧」更新 6/24	住 民
「在宅医療情報 NO.15」掲載 6/24	住 民
看護師、医療介護福祉に係る多職種を対象とした勉強会 令和6年度「自宅での看取りについて」 7/3 下田市民文化会館	多職種
令和6年度 多職種事例検討会 「多問題家族における支援」に関する事例検討会 10/7 東伊豆町役場 10/16 下田市民文化会館 11/6 松崎町役場	多職種
「在宅医療情報 NO.16」掲載 10/16	住 民
【住民向け講習会】 2/11「在宅医療を考える」シンポジウム（東伊豆会場） 「がんと診断されて～医療機関との付き合い方、在宅での過ごし方～」 2/16「在宅医療を考える」シンポジウム（下田会場） 「令和の時代人生の終末期の過ごし方、看取りについて考えよう」 2/23「在宅医療を考える」シンポジウム（松崎会場） 「令和の時代人生の終末期の過ごし方、看取りについて考えよう」	住 民
「在宅医療情報 NO.17」掲載 2/21	住 民

(イ)地域包括ケア病棟の実績(3B 病棟 33 床)

項目\年度	令和5年度 (2023) 実績	令和6年度 (2024) 実績	備考
病床稼働率	73.3%	75.8%	
在宅復帰率	76.8%	77.3%	

※地域包括ケア病棟は、急性期医療を経過した患者や在宅で療養を行っている患者などを受け入れ、患者の在宅復帰支援を行う役割を担う病棟。下田メディカルセンターは、令和5年4月より運用を開始。

(ウ)在宅医療の実績

項目\年度	令和5年度 (2023) 実績	令和6年度 (2024) 実績	備考
訪問診療	12 件	7 件	
レスパイト入院	一件	994 件	令和6年4月より

ウ. 機能分化・連携強化

(ア)救急医療

二次救急医療機関として、令和6年度は年間 **2,798** 人、そのうち救急搬送 **1,265** 人（うち時間外 **750** 人）を受け入れました。当医療圏には三次救急を担う医療機関が無いため、重篤な患者については、順天堂大学医学部附属静岡病院等などの三次救急医療機関と連携し、患者の速やかな搬送に務めました。

救急患者数の状況

項目\年度		令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	比較	備考
救急	救急患者数	2,781人	2,798人	17人	
	内、救急車搬送件数	1,207人	1,265人	58人	
	時間内	519人	515人	△4人	
	時間外	688人	750人	62人	

救急車搬入件数及び下田メディカルセンター搬送割合

	賀茂救急 搬送件数 (年)	賀茂救急 搬送件数 (月平均)	当院応受率 (月平均)	当院受入率 (月平均)	総受入 件数(年)	入院件数 (年)
令和5年度	4,541件	378件	80.6%	26.0%	1,207件	530件
令和6年度	4,275件	356件	82.8%	29.0%	1,265件	540件

(イ)がん相談支援センター設置病院としての役割

当医療圏における死因別死亡率割合の最も高い悪性新生物(がん)に対しては、県立がんセンターとの連携や、医療圏内の医療施設との連携、がん相談支援センター設置病院として情報提供・相談支援を行いました。

がん相談支援センターの事業報告(相談件数等)

項目\年度	令和5年度	令和6年度	備考
がん相談件数	308	287	
がんサロン開催数	4	8	がんサロン「菜の花」令和5年12月開始

(ウ)地域の診療所の医療活動支援

当院は、地域包括ケアシステムの中で、日常医療を担う「かかりつけ医」の支援病院として、高機能医療検査機器(MRI、CT等)の共同利用を推進しました。

院外検査受入件数

項目\年度	令和5年度	令和6年度	備考
CT検査	171	122	
MRI検査	195	139	
骨塩定量検査	41	43	
超音波検査	83	86	
生理機能検査	8	10	
レントゲン検査	0	0	
検査共同利用合計	498	400	

工. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標の実績(経営強化プラン 10 頁)

数値目標

項目\年度	R5 年度 (2023)実績	R6 年度 (2024)目標	R6 年度 (2024)実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
救急車受入件数 (人)	1,207	1,350	1,265	△85	93.7%	B
評価及び今後の施策	整形外科常勤医師の着任もあり、救急車受入数の増加につながった。 医師・看護師の確保を進め、診療提供体制の充実を図り、引き続き消防本部との情報連携を継続強化する。					

項目\年度	R5 年度 (2023)実績	R6 年度 (2024)目標	R6 年度 (2024)実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
救急患者搬送割合 (%)	26.0	30.0	29.0	△1.0	96.7%	B
評価及び今後の施策	賀茂医療圏の概ね3割を受け入れることが出来た。 医師・看護師の確保を進め、診療提供体制の充実を図る。 消防本部との情報連携を継続強化する。					

項目\年度	R5 年度 (2023)実績	R6 年度 (2024)目標	R6 年度 (2024)実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
手術件数 (件)	694	720	1,014	294	140.8%	S
評価及び今後の施策	整形外科および眼科において常勤医師2名体制の構築により手術件数が大幅に増加した。整形外科における手術件数が増加(R5:3件→R6:140件)した。					

項目\年度	R5 年度 (2023)実績	R6 年度 (2024)目標	R6 年度 (2024)実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
リハビリ件数 (件)	24,487	29,000	21,793	△7,207	75.1%	C
評価及び今後の施策	リハビリ専門職の平均人数が13.6名と前年度比3名減少している。 訪問リハビリへの異動も要因となる。 リハビリ専門職の確保を進めるとともに、関連する診療科の充実を図っていく。					

項目\年度	R5 年度 (2023)実績	R6 年度 (2024)目標	R6 年度 (2024)実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
訪問リハビリテーション 件数 (件)	562	2,400	1,031	△1,369	43.0%	C
評価及び今後の施策	令和5年8月より開始したこともあり令和6年度は増加している。 リハビリ専門職は平均人数1.2名で運営している。 引き続き、事業体制の整備と新規訪問先の拡大に努めていく。					

項目\年度	R5 年度 (2023)実績	R6 年度 (2024)目標	R6 年度 (2024)実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
紹介率 (%)	27.4	28.0	30.4	2.4	108.6%	A
評価及び今後の施策	地域のクリニックの減少により、年々減少の傾向にあるが、 引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、機能分化に努めていく。					

項目\年度	R5年度 (2023)実績	R6年度 (2024)目標	R6年度 (2024)実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
逆紹介率 (%)	17.9	19.0	17.9	△1.1	94.2%	B
評価及び今後の施策	地域のクリニックの減少により、年々減少の傾向にあるが、引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、機能分化に努めていく。					

オ. 一般会計の考え方

病院事業は公営企業会計であり独立採算制を原則としますが、公立病院として、地域で必要とされる救急医療や感染症医療、小児医療、へき地医療等の採算性を求めることが困難な分野の診療も担っています。これら政策医療を実施するための経費については、総務省の繰出基準を基本として、令和6年度についても、構成市町の取決めにより、組合規約に基づく負担割合による繰入金を受け病院経営を行いました。

カ. 住民の理解のための取組

少子高齢化、人口減少が進む当圏域では、従来の救急医療の充実だけでなく、地域包括ケアシステムの構築が求められています。当院は、圏域唯一の公立病院として、医療と介護、福祉、自治体との連携強化に努める役割があることから、指定管理者と連携し、地域住民への広報活動に努めていきます。

広報活動等の取組み	令和6年度実績
病院広報誌の発行	3回/年発行
市町広報誌の活用	2市町の広報誌に健康講座を連載 12回/年
健康講座の開催	2024年5月25日 第56回「感染症と免疫のはたらき」 2024年8月17日 第57回「突然！苦しくなる前に・・・放射線検査でわかる心臓のこと」 2024年11月2日 第58回「肝臓の病気について ～肝炎と脂肪肝～」 2025年2月22日 第59回「骨粗鬆症について知ろう～健康で活動的な生活のために～」

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革(経営強化プラン 11 頁)

ア. 医師・看護師等の確保

賀茂医療圏は、医師少数区域に分類され、医師を含む医療従事者の確保が困難な区域となっています。医師確保については、指定管理者が大学や関係機関への働きかけ、人脈による情報収集、医師斡旋を行う民間会社等も最大限に活用し、充足に努めており、令和 6 年度は 4 月から常勤整形外科医師を採用し入院と手術を再開しました。

令和 6 年度は、静岡県に継続派遣を要望し静岡県医師 3 名(内科医)が派遣されております。加えて指定管理者の働きかけにより静岡県医学修学研修資金を利用した医師(整形外科、眼科) 2 名を採用して地域医療サービスの向上に大きな役割を果たしています。

また、働き方改革を念頭に、医療スタッフの職場環境の改善に取り組みました。看護師の確保にあたっては、地元雇用を念頭においた採用活動を行い、指定管理者による看護師等を対象とした奨学金制度を活用し職員確保に努めています。

イ. 臨床研修医の受入等を通じた若手医師の確保

現在のところ、臨床研修受入にかかる人的、施設的な基準を満たさないため、病院単独での研修医の受入れはできていません。指定管理者の母体施設となる海老名総合病院より協力(連携)病院として、令和 6 年度は 1 名の若手医師の受入れを行いました。

ウ. 医師の働き方改革への対応

医師の働き方改革の新制度の施行が始まる前に、当院においては、勤怠管理システムを導入し、医師の出退勤時間を管理、残業時間の適正な把握に努め、また、タスクシフト・タスクシェアを進めることで、医師の業務負担の軽減を図っています。なお、当院は、医療機関に適用する水準は A 水準(特定労務管理対象機関非該当)が適用されおり、宿日直許可についても管轄労働基準監督署の許可を得ています。

5 経営形態の見直し(経営強化プラン 12 頁)

指定管理者制度の導入を継続します。民間の医療法人を指定管理者として指定し、民間的な手法による効率的な運営、医療水準・機能の確保、患者サービスの向上を図っていきます。

6 新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組(経営強化プラン 12 頁)

新型コロナウイルス感染症は、令和 5 年 5 月から感染症法上の位置づけが、新型インフルエンザ等感染症(2 類相当)から、5 類感染症へと変更になりましたが、地域において感染患者が継続していることから、感染患者の入院病床を確保するとともに、発熱外来の実施や院内の感染症対策も継続実施しました。

当院は、感染症指定医療機関として、平時より 4 床の感染症病床を配置し、常に運用可能な状態を保持しています。また、新型コロナウイルス感染症対応の経験を活かし、新興感染症拡

大時に対応できるよう、感染防具等を備蓄しているほか、認定看護師(感染管理分野)を中心とした勉強会を実施しています。

7 施設・設備の最適化(経営強化プラン 12 頁)

(1)施設・設備の適正管理と整備費の抑制

平成24年の竣工以降、年数の経過により、施設・設備の老朽化がみられるようになりました。令和5年11月に施設長寿命化計画(行動計画)を改訂し、計画的な修繕・更新等を行うこととしていますが、突発的な故障(空調機等)もたびたび発生しており、診療業務への影響をみながら必要な修繕等を実施しているところです。引き続き、施設・設備の長寿命化に向けて、適正管理を実施していきます。

(2)デジタル化への対応

マイナンバーカードの健康保険証利用(オンライン資格確認)について、当院では令和3年10月より運用を開始しました。引き続き、利用者の増加に向けた周知の促進と、利用環境の整備に努め、医療保険事務の効率化と患者の利便性向上を図っていきます。

項目	取組内容
ICT の活用	感染症対策に伴いタブレットを活用したオンライン面会を実施 A I 問診導入に向けて検討中
電子処方箋の検討状況	2026 年度導入に向けて検討中
電子カルテシステムの有効利用	患者情報の一元管理。検査結果等の迅速対応等で治療の質向上をサポート
DPC の導入	DPC 対象病院への検討
情報セキュリティー	情報セキュリティー規程を策定し、医療情報システムの安全管理を強化

8 経営の効率化(経営強化プラン 13 頁)

(1)経営の効率化に係る数値目標

ア 収支改善に係るもの

項目\年度	R5 年度 (2023) 実績	R6 年度 (2024) 目標	R6 年度 (2024) 実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
経常収支比率 (%)	97.71	100.21	100.14	△0.07	99.9%	B
【指標の意味】	【算出式】					
医業費用、医業外費用に対する医業外収益の割合を表し、通常の病院活動による収益状況を示す指標	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ 【実績について】 目標値をやや下回ったが、医業収益の増加により黒字となった。前年度に比べ、入院収益の増加が大きかった。					

項目\年度	R5 年度 (2023) 実績	R6 年度 (2024) 目標	R6 年度 (2024) 実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
医業収支比率 (%)	86.61	91.39	90.10	△1.29	98.6%	B
【指標の意味】	【算出式】					
病院の本業である医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す指標	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$ 【実績について】 医業収益が伸びたため、前年度に比べ改善した。医業費用も増加しているため、目標に近づいたものの未達成。費用は減価償却費以外がすべて増加した。					

項目\年度	R5 年度 (2023) 実績	R6 年度 (2024) 目標	R6 年度 (2024) 実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
修正医業収支比率 (%)	83.46	88.21	87.01	△1.20	98.6%	B
【指標の意味】	【算出式】					
医業収益から他会計負担金、運営費負担金等を除いたもの(修正医業収益)を用いて算出した医業収支比率	$\frac{\text{医業収益} - \text{他会計負担金}}{\text{医業費用}} \times 100$ 【実績について】 他会計負担金は前年度ほぼ同額である中、医業収益が伸びたため、前年に比べ改善されている。しかし、医業収支比率と同様に医業費用が伸びているため、目標未達成。					

イ 収入確保に係るもの

項目\年度	R5 年度 (2023) 実績	R6 年度 (2024) 目標	R6 年度 (2024) 実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
1日当たり入院患者数	74.8人	85.0人	80.0人	△5.0人	94.1%	B
評価及び今後の施策	整形外科常勤医師2名、眼科常勤医師2名を配置することで手術件数および入院患者数の増加につながった。 医師の確保を進めるとともに、地域の医療機関との連携を強化し、入院患者数の増加に努める。					

項目\年度	R5 年度 (2023) 実績	R6 年度 (2024) 目標	R6 年度 (2024) 実績	比較 R6 目標:R6 実績	達成率	評価
1日当たり外来患者数	203.6人	210.0人	208.3人	△1.7人	99.2%	B
評価及び今後の施策	整形外科常勤医師2名、眼科常勤医師2名を配置することで外来患者数の増加につながった。 内科や整形外科などの地域に求められる診療科の更なる充実を図っていく。					

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
入院患者1人1日当たり診療収入	40,173円	39,863円	45,535円	5,672円	114.2%	A
評価及び今後の施策	類似病院（100床以上200床未満）のうち、黒字病院の平均(R5)と同程度以上の収入である。更に効率的な運営に努めていく。					

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
外来患者1人1日当たり診療収入	9,771円	9,380円	9,249円	△131円	98.6%	B
評価及び今後の施策	類似病院の全国平均(R5)をやや下回っている。 安定した病院経営に向け、外来診療単価の向上を図っていく。					

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
病床利用率	55.6%	61.6%	61.5%	△0.1%	99.8%	B
評価及び今後の施策	類似病院のうち、赤字病院の平均(R5)よりも更に下回る。 新型コロナウイルス感染症の流行以降、患者数が回復しない状況が続いている。 整形外科患者を受入られるようになり、前年度に比べて向上したが、今後も地域医療ニーズに沿った運営に加え、病床数の適正化を検討する。					

ウ 経費削減に係るもの(指定管理者の数値目標)

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
材料費 (千円)	111,531	145,976	170,421	24,445	85.7%	B
評価	医業収益に対する割合は、類似病院の平均値(R5)と同程度。 物価高騰により材料費も上昇している。					

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
薬品費 (千円)	148,699	126,513	129,250	2,737	97.9%	B
評価及び今後の施策	医業収益に対する割合は、類似病院の黒字病院の平均(R5)と同程度。 引き続き経費の節減に努めていく。					

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
委託料 (千円)	220,569	239,908	229,191	△10,717	104.7%	A
評価及び今後の施策	引き続き、経費の節減に努めていく。					

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
職員給与費 (千円)	1,256,668	1,263,648	1,268,130	4,482	99.6%	B
評価及び今後の施策	医業収益に対する割合は類似病院の平均値(R5)よりも下回っているが、職員人件費は上昇傾向にある。サービスの充実と人員の適正化に努めていく。					

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
減価償却費 (千円)	13,886	14,575	11,860	△2,715	122.9%	S
評価及び今後の施策	病院設備や高額医療機器等は基本的に一部事務組合の負担であるため、指定管理者側の減価償却費は少額に抑えられている。今後も医療機器の選定、導入を計画的に行い、減価償却費の抑制、平準化を図る。					

エ 経営の安定に関わるもの

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
常勤医師数 (人)	11	11	13	2	118.2%	A
評価及び今後の施策	令和6年度は、内科6名、外科2名、整形外科2名、小児科1名、眼科2名の計13名の常勤医師と非常勤医師により診療を行った。引き続き、医師確保に努めていく。					

項目\年度	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 目標	R6年度 (2024) 実績	比較 R6目標:R6実績	達成率	評価
企業債残高 (千円)	2,228,763	2,212,224	2,173,657	△38,567	101.8%	A
評価及び今後の施策	建物・設備等の改修、医療機器の選定、導入を計画的に行い、減価償却費の抑制、平準化を図る。					

(2)目標達成に向けた具体的な取組

当院は指定管理者制度を導入し、指定管理者のノウハウを活かし、経営の安定化を図っています。

収益の確保に向けた主な取組(令和6年度)

項目	取組の内容
地域包括ケア病棟の活用	医療ショート（レスパイト）の受け入れを行い、かつ、在宅復帰支援を実施
診療科の強化	糖尿病内科の設置
救急車受入件数の増加	整形外科常勤医師採用のため骨折等の救急車受入開始
三次救急医療機関と連携した、回復期患者の受入	主に地域包括ケア病棟で回復期対象患者を受け入れ在宅復帰を目指した
外来患者の利便性向上	巡回送迎車の運行
健診受診者の確保	下田市と骨粗鬆症検診を新たに契約
在宅医療の推進	訪問リハビリテーション事業の継続
その他	地域包括医療病棟への病棟編成を実施

経費の削減に向けた取組

項目	取組の内容
人員の適正配置	病棟看護業務のタスクシフトを実施するため病棟事務を採用
業務の効率化	勤怠管理システムの導入により勤怠管理業務を削減
光熱水費等の削減	業者変更による電気料金の削減
薬品・診療器材等、材料費の削減	物品発注システムの運用によるコスト意識の定着 後発医薬品の利用促進
その他	ペーパーレス化

ア 収益的収支（税抜）（指定管理者収支計画＋組合収支計画）

（単位：千円）

項目\年度	R5 年度実績 (参考)	R6 年度 (2024)		差 R6 目標：実績
		目標数値	実績値	
医業収益	1,908,991	2,016,309	2,031,752	15,443
入院収益	1,203,384	1,306,628	1,329,545	22,917
外来収益	583,248	579,121	570,484	△8,637
その他医業収益	122,359	130,560	131,723	1,163
(うち一般会計繰入金)	69,534	69,960	69,688	△272
医業外収益	286,804	242,025	268,357	26,332
(うち一般会計繰入金)	181,846	178,601	192,830	14,229
経常収益	2,195,795	2,258,334	2,300,109	41,775
医業費用	2,204,045	2,206,374	2,254,976	48,602
給与費	1,285,415	1,281,514	1,299,015	17,501
材料費	260,937	272,489	301,373	28,884
経費	445,752	431,931	470,073	38,142
減価償却費等	210,016	216,982	182,571	△34,411
研究研修費	1,925	3,438	1,944	△1,494
医業外費用	43,314	47,199	41,947	△5,252
経常費用	2,247,359	2,253,573	2,296,923	43,350
経常損益	△51,564	4,761	3,186	△1,575
特別利益	148,939	36,666	33,969	△2,697
特別損失	200,356	124,091	235,664	△111,573
純損益	△102,981	△82,664	△198,509	△115,845

イ 資本的収支（税込）

（単位：千円）

項目\年度	R5 年度実績 (参考)	R6 年度 (2024)		差 R6 目標：実績
		目標数値	実績値	
企業債	134,600	44,000	40,800	△3,200
その他	54,158	43,328	45,606	△2,178
(うち一般会計繰入金)	53,485	43,328	42,709	△619
資本的収入 計	188,758	87,328	86,406	△922
建設改良費	135,751	44,000	43,997	△3
企業債償還金	209,099	169,792	165,906	△3,886
資本的支出 計	344,850	213,792	209,903	△3,889
収支差引	△156,092	△126,464	△123,497	2,967